

人と自然と文化にやさしい地域づくり

山口県教育

Education of the Yamaguchi prefecture

明日を拓く — 成果を検証する —

4

令和3年 No.1310



■特別号 明日を拓く

■令和3年度（一財）山口県教育会の活動
明日を拓く — 成果を検証する —

■令和2年度助成事業の概要

■わたしの学校経営

周南市立富田東小学校 校長 矢野 裕之
宇部市立桃山中学校 校長 寺本 実春

■わたしの学級づくり

岩国市立麻里布小学校 教諭 大段 実花
長門市立深川小学校 教諭 中澤 尚子
平生町立平生中学校 教諭 上田 千晶
下関市立夢が丘中学校 教諭 島田 修司

■今も生き生き 柳井支部 尾川 佳己

■わたしの潤い 防府支部 芝口 英夫
萩支部 坂倉 弘道

■ご案内

一般財団法人 山口県教育会

〒753-0072 山口市大手町2-18 TEL 083-922-0383 FAX 083-922-5768

URL <http://www.ykyoikuk.or.jp> E-mail ykyoikuk@ruby.ocn.ne.jp

明治36年4月第1号 每月1日発行 発行人 会長：倉増誠彦／編集長：西岡 尚

令和2年度 第73回山口県学校美術展 推奨作品
「お花が咲いたまご」 いしの ななこ
山口市立嘉川小学校 2年生(受賞時) 石野 菜々子

あなたの
アクションは…

山口県教育会がすすめる
「元気やまぐち」三つのアクション

- ◎あいさつ 返事で 明るいやまぐち
- ◎笑顔でつなぐ 安心やまぐち
- ◎ゴミ 落書きのない 美しいやまぐち



令和3年度（一財）山口県教育会の活動

I 活動方針

明日を拓く（最終年次／7年計画）〔特別継続〕

— 成果を検証する —（最終年次／2年計画）〔特別継続〕



主題「明日を拓く」は、「将来に明るいビジョンを描き、自分の進むべき道を力強く切り拓いていく力」の育成をめざし、7年間で解明を図るよう計画されました。当初の2年間は、副題を「目標を明確にする」とし、特に初年度の活動方針では「日本の将来と国際社会の発展に寄与するために、地域社会・家庭・学校の連携に一層尽力し、将来への明るいビジョンを天空いっぱいに描いて実践活動を活性化する」と謳い、以後本会活動のあるべき姿、事業の目的及び内容の見直しを図りました。平成28年度から3年間は、副題を「豊かな実践に高める」に発展させ、助成事業をはじめとする諸事業の改革・改善を進め、さらに令和元年度から2年間は、「成果を検証する」を副題として、計画当初の思いに立ち返り各事業の進化を確認することとしました。

県内の教育世論の高揚を目的とした「やまぐち教育の日・教育県民大会」は、これまで特定の支部に運営の中心となっていましたが開催してきました。会員全体で大会をいっそう盛り上げるために、これを県内8地区持ち回りの開催へと改革し、初回に当たる令和2年度の開催を下関地区で計画しました。下関大会において下関並びに豊浦の各支部会員の教育にかける思い願いを具体化した企画運営となるよう山口県教育会全体で支援し、計画最終年度として取組を総括するとともに、次期開催へと発展させていかなければならないと考えています。

また、現職研修や地域活性化活動、支部活動などに向けた助成事業についてもその意義を鑑み、会員のために一層役に立つ助成事業となるよう改革を継続します。さらに、日本連合教育会全国研究大会への教員派遣や教職経験10年未満の教員を対象とした青年教師の集いなどについても、現職教員の資質能力向上に資する研修事業となっているか、いま一度問い合わせし一層の改革を図りたいと思います。

上記方針の下、最終年度である令和2年度の取組を具体化するところでしたが、新型コロナウィルス感染症拡大防止のため、助成事業を除くほとんどの事業の延期や中止を余儀なくされました。そのため令和2年度は、主題「明日を拓く」の最終年度として、その役目を十分に果たすことができませんでした。とりわけ、下関大会については、計画半ばで開催延期となり、下関地区会員の思いを大会に反映させることができないまま令和2年度を終えることとなりました。各事業を確実に終えその取組を総括するとともに、実績を新たな主題へと発展させるために、令和3年度を特別継続の年度とし、先行き不透明ではありますが、感染拡大の状況を見極めつつ計画の最終年度を仕切り直すこととします。

II 事業

1 教育世論の高揚事業

○やまぐち教育の日・教育県民大会の開催

第20回やまぐち教育の日・第48回教育県民大会下関大会

主催（一財）山口県教育会ほか22団体

期日 令和3年10月30日(土)

会場 下関市菊川ふれあい会館アブニール

大会主題 「明日を拓く」

～子供の育ちを見つめる～

内容

- ・アトラクション「平家踊り」
　　本村小学校平家踊りを受け継ぐ子の会
- ・閉会行事
- ・「金子みすゞ賞」童謡詩、「わたしの志」作文
　　入賞者表彰及び朗読
- ・実践発表「学校を支えるPTA活動について」
　　下関市PTA連合会 会長 松永 英治様
- ・記念講演
　　演題：「アンパンマンのように生きる」
　　講師：下関市教育委員会 教育長 児玉 典彦様
- ・閉会行事

※ 次期開催地 岩国地区

○「元気やまぐち」三つのアクション

(平成17年度山陽小野田大会にて採択されました)

- ・あいさつ 反事で 明るいやまぐち
　　【「おはよう」「ありがとう」大きな声で】
- ・笑顔でつなぐ 安心やまぐち
　　【ジョギング 散歩 安心ネット（見守り隊）】
- ・ゴミ 落書きのない 美しいやまぐち
　　【拾おう 消そう みんなで実践】

○地区別教育振興フォーラム

時期 令和3年11月1日(月)～7日(日)の教育週間を中心を開催する。

会場 各地区的開催担当支部が決定する。

内容 地域活動の発表、講話、シンポジウム等

○教育活動の情報発信

- ・情報紙「山口県教育」の編集・毎月発行
　　特別号（4月・10月は増ページ）
- ・ホームページの随時更新

※ 現職研修助成事業と地域活性化助成事業は、活動概要報告の受領後、随時アップします。

○各種キャンペーンの連携推進

明日を拓く -成果を検証する-

2 教育研究の奨励事業

○第11回教育維新・青年教師の集い

期日 令和3年8月10日(火)～11日(水)
会場 パルトピアやまぐち
参加者 小学校教諭、中学校教諭 各6人程度
内容 小中学校国語科
 一国語で正確に理解し適切に表現する資質・
 能力を育てる
 ・指導実践例に基づく発表、意見交換
 ・指導案作成、模擬授業、研究協議

申込締切 令和3年6月11日(金)

○第72回日本連合教育会研究大会香川大会への参加

期日 令和3年8月18日(火)～19日(水)
会場 サンポートホール高松 他
大会主題 「不透明な時代にあって、自らが輝き未来を創造する日本人の育成」
 ・全体会
 ・記念講演 佐藤 勝彦 氏
 (宇宙物理学者、日本学術振興会学術システム研究センター所長、高松市こども未来館名誉館長)
 演題：輝く未来を創る力、好奇心を育む
 ～宇宙物理学者からのメッセージ～
 ・分科会 教育課程、道徳教育など10分科会
参加経費 参加費、交通費、宿泊費は、
 (一財) 山口県教育会が負担する。
参加申込 (一財) 山口県教育会へ

3 教育環境の整備事業

○地域活性化活動助成事業

助成の対象

- ・趣旨に適合した一般団体
- ・学校と連携して地域の活性化に取り組むPTA
- ・学校と連携して地域の活性化に取り組むグループ、団体

助成の対象となる活動

- ・地域の活性化を図る計画的、組織的な教育活動
- ・学校支援の活動、地域の子どもたちの教育支援及び教育環境整備の活動
- ・地域の伝統文化、文化遺産等の継承活動

助成金額及び助成件数

助成金額	助成件数	留意点
5万円	10件程度	・1団体につき1件とする。
4万円	20件程度	・1校につき1件とするが、大規模校の場合は2件以内とする。
3万円	30件程度	

※今年度から、申請の留意点に「申請者は会員であることが望ましい」を追加しました。

申込締切 令和3年6月11日(金)

○現職研修助成事業

対象 個人、学校、同一校職員によるグループ、サークル、複数校職員によるサークル

対象とする研修

- ・教育課程の編成、実践、指導法の工夫、教材開発、評価の研修など
- ・研修会、研究発表会、講演会等の開催及び研究集録等の刊行など
- ・研究大会、学会への参加や先進地の視察など

助成金額及び助成件数

種別	助成金額	助成件数	留意点
学校 ※	5万円	10件程度	1校につき1件とする
	4万円	20件程度	
	3万円	30件程度	
グループ サークル	4万円	3件程度	1校につき1件、大規模校は2件以内とする
	3万円	5件程度	
個人	3万円	5件程度	

※今年度から、学校研修助成申請の留意点に「教育会加入率が60%以上、又は会員数25名以上のいずれかが望ましい」を追加しました。

申込締切 令和3年6月11日(金)

○教育団体研究補助事業（名称変更）

対象 ・教育団体が主催する本県で開催される全国大会、中国四国大会等
 补助金額 5万円～10万円

・小学校教育研究会、中学校教育研究会、公立学校教頭会が実施する教育研究会
 补助金額 各団体につき15万円

申込締切 令和3年5月28日(金)

○支部活動振興助成事業

助成の対象 山口県教育会支部

支部と連携する諸団体

助成の対象となる活動

- ・支部組織・機構の整備、充実活動
- ・教育世論を喚起・結集する活動
- ・地域の伝統文化、文化遺産等の継承活動
- ・青少年の健全育成活動
- ・学校、地域との連携活動
- ・会員確保の取組

助成金額

年間助成金総額を100万円以内とし、その範囲内で事業内容等を勘案して助成金額を決定する。

申込締切 令和3年7月2日(金)

○支部組織の充実

- ・支部研修の充実
- ・会員目標 10,000人以上
 (小・中学校教職員の70%加入を目指す)
- ・団体、機関への教育会加入の勧誘

○学校、公民館(地域交流センター)、自治会等との連携

- ・学校、公民館(地域交流センター)、自治会との連携活動の充実
- ・公民館(地域交流センター)祭り、地域の祭り等におけるP R活動

明日を拓く -成果を検証する-

4 教育事績の顕彰事業

○「わたしの志」作文の募集と表彰

第12回「わたしの志」作文募集

- ・募集部門 小学校（4年生以上）、中学校、高等学校の3部門
- ・賞 山口県教育委員会教育長賞（最優秀）一編
山口県教育会長賞（優秀）各部門一編
松風会理事長賞（優秀）一編
努力賞（佳作）各部門数編

・表彰

第20回やまぐち教育の日・第48回教育県民大会下関大会において表彰式を行う。

・表彰作品の発表

最優秀作品は、第20回やまぐち教育の日・第48回教育県民大会下関大会において作者が朗読を行うとともに、山口県教育会が発行する情報紙「山口県教育」に掲載する。

最優秀作品を含む優秀作品は、山口県教育会のホームページにおいて公表する。

・募集締切 令和3年9月6日（月）

○松陰に親しむ会（令和2年度防府支部）

○松陰の道歩行大会（令和2年度防府支部）

○松陰研修グループの支援（令和2年度萩支部）

○徳地幕末維新歴史放談の会（令和2年度佐波支部）

○郷土の偉人・文化に学ぶ会（令和2年度防府支部）

○松風会共催事業の支援

5 文化遺産の継承事業

○「金子みすゞ賞」童謡詩の募集と表彰

第33回「金子みすゞ賞」童謡詩募集

- ・募集部門 小学校、中学校、高等学校・一般の3部門
- ・賞 山口県教育委員会教育長賞（最優秀）一編
山口県教育会長賞（優秀）各部門一編
努力賞（佳作）各部門数編
学校賞 一校

・表彰

第20回やまぐち教育の日・第48回教育県民大会下関大会において表彰式を行う。

・表彰作品の発表

最優秀作品は、第20回やまぐち教育の日・第48回教育県民大会下関大会において作者が朗読を行うとともに、山口県教育会が発行する情報紙「山口県教育」に掲載する。

最優秀作品を含む優秀作品は、山口県教育会のホームページにおいて公表する。

・募集締切 令和3年9月6日（月）

○支部、地域の文化活動の支援



- ・地域の伝統行事
「もみ山」の保存、継承
(令和2年度大島支部)
- ・月性剣舞保存会継承活動
(令和2年度柳井支部)

6 編集出版等事業

- ・教育関係書籍
「高校生活への道しるべ」「思春期の子どもをもつ親の悩みに答える20章」「山口県婦人手帳」
- ・吉田松陰関係書籍
「松陰読本」「松陰先生に学ぶ」「維新の先覚 吉田松陰」「松陰と道」
- ・金子みすゞ関係書籍
「わたしと小鳥とすずと」
- ・学校関係
「出席簿」「日誌」「物資受払簿」「衛生点検票」「検食簿」
- ・「ふるさと山口わが校歌」(CD)、吉田松陰先生座像の頒布

7 会館管理運営事業

- ・安全で合理的な会館の運営とサービス向上
- ・研修室、会議室、ホールの稼働率向上
- ・施設設備の計画的改修と整備

III 予 算

一般会計

収入の部 (単位：円)

科 目	予算額	備 考
基本財産運用益	1,444,000	
受 取 会 費	16,750,000	通常、終身等会費
受取補助金等	486,000	下関市、民間団体等
受取寄付金・雑収益	101,000	
評価損益等調整	19,769,000	
収入合計	38,550,000	

事業会計

収入の部 (単位：円)

科 目	予算額	備 考
事 業 収 益	7,772,000	出版事業
雑 収 入	461,000	
収入合計	8,233,000	

会館会計

収入の部 (単位：円)

科 目	予算額	備 考
事 業 収 益	13,400,000	ホール・研修室使用料
受取負担金	19,100,000	入居団体負担金
雑 収 入	301,000	自販機、利息等
経常損益等調整	11,284,000	
収入合計	44,085,000	

支出の部

支出の部 (単位：円)

科 目	予算額	備 考
事 業 費	31,679,000	助成金、活動費等
管 理 費	6,871,000	会議費、通信費等
支出合計	38,550,000	

支出の部

支出の部 (単位：円)

科 目	予算額	備 考
事 業 費	7,099,000	印刷費、運搬費等
管 理 費	981,000	会議費、手数料等
評価損益等調整	153,000	
支出合計	8,233,000	

支出の部

支出の部 (単位：円)

科 目	予算額	備 考
事 業 費	31,040,000	修繕費、消耗品費等
管 理 費	13,045,000	光熱費、会議費等
支出合計	44,085,000	

令和2年度助成事業の概要

令和2年度教育研究・地域活動等助成事業の実績

事業項目	助成額
○現職研修奨励事業 (全75件) (個人4、学校65、グループ5、サークル1)	2,380,000円
○教育団体研究助成事業 (全5件) (小中学校教育研究会2、公立教頭会1、全日本中学校国語教育研究会協議会1、山口県へき地教育研究大会1)	600,000円
○地域活性化活動助成事業 (全55件)	1,860,000円
○支部活動振興助成事業 (7支部1団体 全18件)	27,000円
合計 153件	5,367,000円



豊北小学校でのハロウィンかぼちゃランタン作り（下関北高校）



人形劇教室（由宇支部）

☆現職研修助成事業及び地域活性化助成事業において助成を行った活動は、活動概要をホームページに掲載しています。

【報告例】 岩国市立柱野小学校（地域活性化助成事業）

令和2年度 地域活性化活動助成事業活動概要 「学校創立140周年記念 第6回 柱野スポーツフェスタの実施」 岩国市立柱野小学校

1はじめに

本校は、令和2年10月で学校創立140周年を迎えた。これまで、地域の方々の学校への深い理解とご支援により、今の学校が築かれてきた。教育熱が高く、脈々として流れる地域の気風と強い伝統を感じている。そこで、創立記念行事を機に、さらなる学校の発展と地域の活性化につながる願いを込め、本活動を実施することとした。

式典の様子



2活動の概要

(1) 記念式典

①校歌斉唱、校長式辞、PTA会長挨拶

②アトラクション

③児童代表6年生「学校への思い」発表

コミュニティ・スクールの仕組みについて、
学校運営協議会の役目や目的について、子どもたちの言葉で紹介した。その後、日々の教育活動への支援や地域貢献などについて、活動紹介や身に付いた力などを発表した。



②卒業生からのメッセージと全員合唱

卒業生でありプロ歌手の原田侑子さんによるステージを設けた。原田さんから、子どもたちへの力強いメッセージをいただくとともに、「ふるさと」を子どもたちや会場の出席者と一緒に合唱をしていただいた。

卒業生・原田侑子さんと「ふるさと」合唱 →

③柱野太鼓『いなづま』演奏

全校児童18名で、約30年続く太鼓の演奏を行った。4月から練習を重ねてきた成果を発揮しようと、堂々とした態度で出席者に披露した。「ふるさとにわたしたちの元氣と柱野太鼓を響かせます。」と始まった。これまでも、地域発表を重ね、地域の方々の高い関心を募めている。



(3) ふれあいゲーム大会

柱野太鼓『いなづま』全校発表

①クイズ大会、お楽しみ抽選会

PTAや地域代表が考えた学校に関するクイズ大会を行い、ふれあいを図った。学校や地域の歴史や行事に関する問題は、これまでの学校や思い出を振り返るよい機会になった。



学校クイズ大会



クイズ大会表彰・お楽しみ抽選会

3おわりに

(1) 成果

まず、本活動を行うに当たって、PTAや地域代表で構成した実行委員会を立ち上げた。何度も協議の場をもち、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、当初予定していたスポーツフェスタの内容や規模を一部変更せざるを得なかったが、計画や準備を綿密に行い、当日の運営も実行委員会で行った。学校と地域が協働して行うことにより、より一層の一体感が生まれ、学校を核としたコミュニティとしての機能が高まった。そして、地域を巻き込んだ組織の構築の重要性をあらためて感じることができた。

また、児童によるコミュニティ・スクールの説明を地域住民が集まる式典という機会を利用することで、児童の学校支援への感謝や地域貢献、学習意欲などの意識の高まりや、コミュニティ・スクールの周知とさらなる協働意識の高まりにつながった。

さらに、創立記念式典を機に、地域の期待に応える学校づくりのあり方や協働実践の意義など、学校教育目標の実現に向け、教職員の学校運営参画への意識の高まりを見た。

(2) 課題

地域行事や地域住民のニーズを考慮した学校行事のあり方について検証改善を行うとともに、コミュニティ・スクールのよさや重要性を実感できる「今までこれからも地域と共にあゆむ学校」づくりに邁進していきたい。

ホームページ（トップページ>事業）から各活動報告を閲覧することができます。

- 現職研修助成事業..... ○○年度助成団体一覧・活動報告（随時）→
- 地域活性化活動助成事業..... ○○年度助成団体一覧・活動報告（随時）→

「指導的評価活動」で人材育成を学校経営の核に



周南市立富田東小学校

校長 矢野 裕之

社会科の授業で映し出された写真に、「ええーっ」という素直な反応を示す3年生。それもそのはず、写真の中の学校は水田に囲まれ、現在、立ち並んでいるマンションや病院、大型商業施設は、どこにも見当たりません。

これは、子どもたちの主体的な学びを引き出したいと考えた若手教員が、校長室の過去資料から見付け出した、60年前の本校周辺の航空写真です。



60年前の航空写真

昨年度、私はこの可能性あふれる教職員集団と出会い、人材育成を学校経営の核にしようと決めました。子どもたちの成長も、新たな教育課題への挑戦も、そして働き方改革も、最前線でがんばる教職員の資質向上抜きに成し遂げることはできません。

リーダーシップの技としての「指導的評価活動」

昨秋、教頭時代と一緒に勤めた先生から、1枚の写真とともに、このような連絡が届きました。「中央研修の講義で、当時教頭先生がされていたことは、まさしくこれだつた！」という再発見がありました。（講師の先生の許可を得て資料の写真を掲載します。）

30年前、初任の学校で学んだのが「指導的評価活動」でした。

以来、学習指導、学級経営において、または行政職や管理職に立場が変わつても、私は、これを基本的な考え方や姿勢として大事にしてきたつもりでした。

冒頭の社会科の单元では、「子どもたちに地域の移り変わりについて話してほしい」という学年主任の願いを受けて、地域コーディネーターが「うつてつけの方を探してくださいました。例えば、「ねうち」のある「学校・地域連携カリキュラム」とは、決して1枚の表を整える作業ではなく、こうした営みを充実させていくことだと思います。

学校経営方針、国や県の施策・方針などを、いかに「ねうち（価値）」のあることととして、児童、教職員、保護者、地域に広げていくか。「指導的評価活動」は地道な取組の積み重ねです。まだまだ、コミュニケーションスクールの経営者としての勉強は続きます。

昨年度、週1回発行してきた教職員向けの校長室だよりのタイトルです（中竹竜二さんの著書『からいただきました』）。本校の教職員は、学級担任の3分の2が初任から2校目までの若手で構成されています。もちろん、経験値や指導力に違いはありますが、しっかりと準備をして子どもたちに臨むという姿勢は皆同じです。日々、若手からベテランまでが一緒に、熱心に相談をする姿が職員室の日常風景となっています。

BEST!! 最高の準備をしよう

「On The

リーダーシップの技としての「指導的評価活動」

- 学校の向かうべき方向性を指し示すリーダーシップの技として、指導的評価活動が重要
- 「指導的評価活動」とは（吉本均：教育方法学）
子どもたちの育ちとそれを支える教員・学校の育ちのわずかな前進の事実を発見し、そこを刻々に評価し、ねうちづけしていくこと
- どうすることやどう考えることが「ねうち（価値）」のことなのかを児童生徒・教職員・保護者・地域に自覚化させ、それを拡げていく。
例）学校だより、研究だより※異なる「お知らせ」ではない
・さまざまな講話・挨拶
・すぐにその場で取りあげてのねうちづけなど

指導的評価活動

- 1 子どもたちの可能性に対する信頼と要求の一一致、最大の尊重に支えられた要求である。
- 2 子どもたちの「発達の最近接領域」に見合った要求である。
- 3 学級集団内に自己教育力を育てる。

「指導的評価活動」には、次の三つの留意事項があると言われています。⁽²⁾

1 この中の、「子どもたち」、「学級」を「教職員」に置き換えて考えてみます。

2 この中の、「子どもの」「発達の最近接領域」に見合った評価・指導を返すとともに、同僚性に支えられた適切な支援を「一ディイネートする。本校では、若い研修主任の尽力で、放課後のミニ研修が定着している。

3 この中の、「子どもの」「発達の最近接領域」に見合った評価・指導を返すとともに、同僚性に支えられた適切な支援を「一ディイネートする。本校では、若い研修主任の尽力で、放課後のミニ研修が定着している。

(1) 中竹竜二『特別な才能はいるない 自分にしかできないスクーリーダーになろう』教育開発研究所 2017

(2) 吉本均『授業をつくる教授学キーワード』明治図書 1986

学校経営においても再認識されていること、また、教頭在職時の先生にも理解してもらえていたという事実は、私にとつて大きな支えとなりました。

「誇りのもてる生徒の育成」をめざして



宇部市立桃山中学校

校長 寺 本 実 春

コミュニケーション・スクールの仕組みを生かした小中一貫教育の推進

宇都市では、令和2年度から小中一貫教育がスタートしたが、本校は、平成29年度から3年間、モデル校となり取組を始めている。桃山中学校区（桃山中・新川小・小羽山小）の課題を「学力・規律」と捉え、それをキーワードに組織（学び・心みがき・絆づくりの三部会）を編成し、校務分掌とPTA組織を連動させる形で進めてきた。



リモートによる小中交流会

今後も、学校運営協議会委員の参画のもと、熟議と実践を重ねて小中一貫教育目標に迫り、自信と誇りをもつ児童生徒を育てたいと考えている。

「学び合い」を通した学力向上

昨年度は、「主体的に学び合う生徒の育成」を研究主題とし、学力向上を図ることをめざした。生徒同士がグループで、学び合う学習活動を通して分からぬことを聞き、それに對して相手が分かるように教えるという「学び合い」に特化した授業に取り組んだ結果、少モードによる

昨年度は、新型コロナウイルスの影響が広がる中、リモート形式で生徒会執行部と小学6年生が、中学校生活に関する質疑応答を行う交流会を実施した。この会を通して、小学生が安心して中学校に入学でき、新たな人間関係を築きながら、互いに切磋琢磨し成長していくことを期待している。

9割の生徒がグループ学習を肯定的に捉え、分かることが増えたと実感していることから、「学び合い」を深めることが、基礎学力の定着や思考力の育成につながると考えられる。グループの中で関係を築き、積極的に学び合うことへの意識をより高めることで、学力向上を図りたいと考える。



今後、「分かる喜び・
できる楽しさ」を味わわ
せる授業実践に加え、研
究や実践から得た成果や
課題を基に、学び合う学
習活動の工夫・改善に努
め、授業の質の向上を図つてい
きたい



『学び合い』のある授業

生徒の自治力を育成し、生徒会活動を充実させるべく、生徒とともに取り組む生徒指導を実践する。

○あ・じ・み・そ・言葉

○自問清掃 を徹底し、楽しく有意義な学校生活を送る。

無言で自分と向き合いかねる滑稽であることを通じて、5つの心「我慢する心・気付く心・親切な心・正直な心・感謝する心」を身に付ける。

○ハッピーライフ運動
暴言・暴力をなくし、いじめを根絶する。達成でき
た日数を積算し、延ばすように取り組む。



マスコットキャラクター
「ハッピー桃太郎」

○ハッピー桃太郎運動



「ハッピー桃太郎」 あいさつ運動



オープステージ改修落成式典

わたしの学級づくり



「ただいま！」と言える場所に

岩国市立麻里布小学校

教諭 大段 実花

「ただいま！」「行つてきます！」

そう言いながら教室を出入りする子どもたち。教室は、子どもたち一人ひとりが安心して過ごせる場所でありたいと私は考えます。

4月の出会いは、子どもも教師も期待と不安でドキドキです。「みんなに会えて嬉しい」。「楽しみに待っていたよ」。一人ひとりの顔を見ながら声を掛け、初日の出会いは必ず笑顔でスタートします。

1年を通して心掛けていることは、学級づくりでも授業づくりでも、子ども自身が自分で考えて課題や方法を見付けることこそが重要だと思うからです。教師が言つたことを忠実に守つて再現するのではなく、子ども自身が自分で考えて欲しくてきこそ、しっかりと考へて指示を出す。子どもたちは様々なアイデアを出しますが、否定はせず、まずは体験させて様子を見ます。すると子どもたちは自分たちで必要な課題を見付け、解決の方法をみんなで考へていこうとします。時間はかかりますが、こうやって何度も試行錯誤を繰り返しながら、子どもたちは友だちや自分のよさを感じ、そして達成感や仲間意識を高めていきます。



試行錯誤を繰り返し、みんなでつくりあげた秋ラジド

こういった活動を1年間繰り返していくうちに、4月はバラバラだった気持ちが一つの集団としてまとまつていき、共に悩んだり笑つたりした仲間として、一人ひとりの居場所が自然とできあがつていきます。

キラキラした子どもたちのエネルギーを全身で受け止めて過ごす時間は、限られたとても幸せな時間です。目の前の子どもたちに出会えたことに感謝し、「ただいま！」「行つてきます！」の声があふれるあたたかい場所を、子どもと一緒につくり続けられる教師であります。

令和2年4月、本校では運動場で始業式を行いました。臨時休校明け日つクラス替え直後という中、落ち着かない気持ちを抱えているはずの子どもたちが「いつも通りで」という指示のもと、静かに整然と並び、立派な態度で式に臨みました。規律の定着、温かい学校の風土など、学びのつながりに感動を覚えました。

本校勤務7年間の経験から、改めて学級経営と学力向上は一体であると感じています。子どもたちにつけたい力を明確にし、確実な定着を求められる今、それを実現させるためには次のことが大切であると考えます。

一つ目は、規律の徹底です。私が心がけていることは当たり前のことです。子どもたちとともに守ることです。例えば、「時間を守りましょう」と言わなくとも、チャイムと同時に授業を開始すれば自然と時間を守る子どもが育ちます。決められたことを守り継続すれば習慣化し、当たり前となります。ただし、次年につながらなければ意味がありません。学校全体で徹底させることができます。

二つ目は、子どもが互いのよさを認め合う温かい風土づくりです。ありきたりですが「讃めること」を大事にしています。教師が子どものよ

チームで学びをつなぐ

長門市立深川小学校

教諭 中澤 尚子



令和2年度 青空のもとでの始業式

さを認めて温かい言葉で思いを表出しなければ、子どもの間に温かい雰囲気は広がりません。本校では、教師は子どもを「さん」だけで呼びます。こう呼ぶと、続く言葉が優しく丁寧になり、相手を尊重した感じになります。私自身そのよさを感じて実践しています。また、子ども同士が互いのよさを伝え合う「みすゞハート」という取組を全校で行つております。温かい学校風土づくりにもつながっています。

深川小学校で、めざす子ども像に向かって教員が一丸となつて指導することの大切さを学びました。学級経営を個人のこどと捉えるのではなく、「チームで学びをつなぐ」ことを念頭に今後も励んでいきたいです。

温かい信頼関係づくりをめざして

キーワードからの学級づくり



平生町立平生中学校
教諭 上田 千晶



下関市立夢が丘中学校
教諭 島田 修司

春休みが終わり、迎えた新年度、学級開きの日。生徒たちはどんな気持ちだろうか。新しいクラス、そして担任。仲の良い友だちを見つけ、ホッとしている生徒もいれば、まだまだ緊張感が解けず、不安そうな表情を浮かべる生徒もいるだろう。私は、元気よく、そして明るい笑顔でいることを心がける。

「この一年、一緒に楽しもう！」これがまず一番に伝えたいメッセージだからだ。学活の時間には、それぞの1年間の目標をじっくりと考えさせる。目標に向かって頑張ることのできるすばらしい1年にしよう、そして変わろうとする仲間を全力でサポートしよう、と強い思いを伝える。何事にも仲間と支え合い、ともに伸び合うクラスにしたい。1年後には、一人ひとりが自分の成長を実感し、自信を高めてほしいから。それぞれが魅力あふれる生徒たちだ。自分のことをさらに好きになつてほしいと願う。

私が学級づくりにおいて最も大切にしていることは、生徒との信頼関係の構築である。「この先生は、いつも自分を信じ、応援してくれている。そう信頼されるような温かい担任でありたい。そのため、一人ひとりとのコミュニケーションに努め、好きなことや頑張っていること、



話してくれた面白かつたできごとなど：その中にあるかけがえのない個性を大切にしたい。また、ちょっとした表情の変化もよく觀察し、心の動きに気づくこと。もちろん、差別やいじめにつながるサインは決して見逃してはならない。そのため、いつもそばで寄り添つていられたらと思う。そして、時には生徒とともに楽しみたい。それらの積み重ねが温かい信頼関係づくりにつながるはずである。

まだまだ教員として課題は多い。だが、多くの先生方や生徒たちに教わってきたことを支えとし、これからも笑顔で歩んでいければと思う。

私は、クラスのキーワードとして「自分から」と「良さを認める」の二つを掲げています。自分から気づき、考へ、行動できることが大切だと思ふからです。また、人のよさを見つけ、それを認め合うことでクラスの支持的風土を醸成したいと考えています。委員と教科係以外の役割は設けず、あとは気づいた人に任せます。そして毎日の帰りの会で「今日のMVP」を発表してもらいます。「進んで配り物をしていた」「雑巾を整えていた」「落ちていたごみを拾つていた」「当番じゃないのに黒板を消していた」など、いろいろな生徒が自分から気

づいて行動してくれていることを嬉しく思います。時には帰りの会で「隣に座る仲間のいいところを伝え合おう」「今日1日を振り返つて、『ありがとう』を伝え合おう」と生徒に投げかけることもあります。

当たり前のことだが当たり前にできる学級の秩序づくりを前提として、自発的行動を推奨し、互いに認め合うことで、誰にとつても居心地のよいクラスであつてほしい、そして、その中で共に学び、高め合つてほしいういふをもつて学級経営に臨んでいます。



また始まる新しい1年。生徒たちと一緒にと一緒につながり、素敵な学級づくりです。全

ては年度の終わりに一人ひとりが「このクラスで良かった」と思えるように。

今も生き生き

授業への口マンを求めて



柳井支部

尾川佳己



まくいった！」と思つて、授業の終わりに書かせた「まとめの短作文」を読んでみると、読みを深める働きかけが弱く、クラスの3分の2の児童が読み取れていなかつた。こうした児童とのズレを解消すべく授業改善を積み重ねていった。

3 授業のアイデアをうみ出す

山口大学附属光小では、試行錯誤の末に、授業のアイデアをうみ出した。例えば、「スイミー」（2年）では、最終場面で、「くらげ・いせえびたちのお面をつけて対話」させ、スイミーのイメージを深めさせたり、「二つの花」（4年）では、母親になりきつて「子育て日記」を書かせ、ゆみ子と父親像・母親自身の思いを深めさせたりした。こうして、私の授業スタンスは、「授業へのロマン・児童への情熱・実践へのアイデアと論理性（個が生きる国語科の授業を追い求め、児童のために、論理的に裏打ちされた授業のアイデアをひねり出すことに燃える。）となっていました。



4 単元を請け負い授業をする

元をもらい、毎年授業をしてきた。特に、「川とノリオ」（6年）は、作者のいぬいとみこさんが、広島に原爆が落ちた時、柳井の保育園に勤めていた体験が創作のきっかけとなつたこともあり、教材研究に力が入つた。退職する年は、柳井市立伊陸小で、これを教材に現職最後の授業を開いた。ななかな思い通りにいかなくて必ず課題が残つた。だからこそ、児童のためにと燃えるのかかもしれない。

5 初任者の授業に学ぶ

退職した後は、初任者研修を担当した。初任者の授業を参観する時は、「授業は、児童の事実で語れ！」をモットーに、大学ノートに二本線を入れて、「教師の働きかけ・児童の反応・気付き」をメモして、それに基づいて、初任者を指導した。初任者の授業課題を見つけることは、授業のあるべき姿が見えてくる。

ある初任者は、記録票に、次のように書いている。「授業は、ときには、のめり込んで考えることが大切。のめり込んで、ああでもない、こうでもないと考え方までして、よりよい流れをつくり上げ、授業に挑む。でも、そこまでしても、思つたように、なかなかいかないのが、授業の面白さであり、難しさである。だからこそ、さらに、よいものをめざし、教材研究を深めるのだ」。まさにこれが、授業へのロマンを追い求めようとしている姿である。私の授業へのロマンも、初任研で大きくふくらみ、今回の出版へのエネルギーとなつた。

今後は、「中国・国語教育探究の会」の顧問をしているので、授業へのロマンを求めて、若い先生の実践を後押ししていきたい。

2 児童とのズレを解消する

兵庫教育大学附属小では、個が生きる国語科の授業を求めて、実践が始まつた。しかし、今日の授業は、「う





ゆつたり、楽しく、充実した日々

防府支部
芝口 英夫



にも参加して、トランペットを吹いています。練習の成果を演奏会で発表するのがとても楽しみです。

これまでも不定期にバンドの合奏指導や楽器の指導をしていましたが、昨年から、市内小学生のバンドを週2回指導することになりました。子どもたちが、楽器や音楽を好きになってくれることを願っています。

このほかにも、インスタグラムやフェイスブックなどにも挑戦して、楽しい毎日を過ごしています。

健康であることを喜び、充実した人生の終活を楽しみたいと思っています。

退職後早くも7年がたとうとしています。58歳の時に、脳に動脈瘤があるのが分かり、カテーテル手術をしましたが、その時に脳梗塞が発見されて、その除去手術を行いました。動脈瘤は、退職後クリッピングをしても予定でしたが、縁あって突然、三田尻塩田記念産業公園に勤めることになりました。

公園では、塩田の整備をしたり、草刈りや、除草などの環境整備をしたりしています。月に12日程度の勤務ですが、体力維持、向上にはとつてもいいです。また、見学や体験に来られるお客様方を案内したり、江戸時代から260年間伝わってきた塩づくりの歴史や作業を教えたりすることも行っています。

休みの日には、上手ではありませんが、大好きなゴルフの練習をしたり、ウォーキングをしたりして過ごしています。

また、コントラバス奏者として、吹奏楽団やオーケストラに入団させていただき活動しています。さらに、退職者5人で結成した金管アンサンブル「シルバーブラスアンサンブル」

野鳥の撮影に魅せられて

萩支部
坂倉 弘道



退職して1年。自由にできる時間も増え、教員時代から好きだった写真撮影に多くの時間を費やすことができるようになってきた。

最近は、野鳥の撮影が中心で、朝早くから山や川、海岸へと出かけている。また、今までなかなか出席できなかつた野鳥観察サークルの月1回の例会にも休まず参加している。

ただ、撮影に出かけるときの期待感とは裏腹に、小さな鳥は素早く動き回るため、なかなかピタッとピントが合わない。木々の間にいる鳥は、手前の枝にさえぎられ、体全体が撮りにくい。カモたちは、かなり離れていても気配を感じてすうっと遠くに行ってしまい、なかなか近寄らせてくれない。さらに、撮った写真は、カメラの液晶ではきれいで見えるが、帰つてパソコンで確認するとボツボツ真の山。がつかりすることが多い。しかし、そんなこともめげず、「次こそは!」という思いだけは強まり、飽きもせずまたいそと出かけているのである。

ときどき、お気に入りが撮れることがあるが、それはフェイスブックに投稿し、仲間たちに見てもらう。みんなの「いいね!」やコメントが励みとなり、次の撮影への意欲につ

ながっている。

失敗の繰り返しの中で学んだこともある。鳥が出てくるのを待つ、あく待つてどんな動きをするのか確認するなど、「待つ」ということを意識するといい瞬間に巡り合うことが多い。素早い動きの小鳥も、じつと見ていると、一か所に少しだけ長く留まることがある。手前に枝がない位置に一瞬だけ移動することもある。そんなタイミングを待つてシャッターを切ると、お気に入りが撮れるチャンスが増えるということである。

野鳥の撮影もなかなか奥が深い。これから先も、あれこれ悩みながらしつかりと楽しみたい。

(一財) 山口県教育会

情報誌「山口県教育」を発行します

伝統文化の継承を支援します

入会のご案内

学校(園)の教育活動を支援します

地域活動の推進を支援します

子どもも大人も夢をもって生きる豊かな学校や地域の創造にあなたの力を!!

あなたの会費を
こんなことに役立てます

学校(園)の教育活動を支援します

- ・個人、学校(園)、グループ、サークルへの研修助成(コミュニティ・スクールの充実を含む)
- ・「青年教師の集い」の開催

地域活動を推進します

- ・「やまぐち教育の日・教育県民大会」の開催
- ・地域協育ネットの活動充実のための助成
- ・地区別教育振興フォーラム、史蹟探訪等の地域活動助成

伝統文化を継承します

- ・「金子みすゞ賞」童謡詩募集
- ・「わたしの志」作文募集
- ・地域の文化遺産や伝統文化の継承活動助成

情報紙「山口県教育」を発行します

- ・会員相互の情報交流

詳しくは、ホームページをご覧ください

山口県教育会

<http://www.ykyoikuk.or.jp>

入会にあたって

1 対象

- ・保育園・幼稚園、学校等の現職教職員と退職者
- ・一般県民、学校(園)のPTA会員、教育関係機関の職員、諸団体の職員

2 会費(年会費)

- ・通常会員 2,000円(初年度は1,000円)
- ・賛助会員 3,000円
- ・終身会員 50,000円(入会時のみ)

3 入会申込

- ・現職教職員の方は、学校(園)の担当者に
- ・一般の方は、(一財)山口県教育会事務局、または、各支部担当者に

(一財) 山口県教育会(組織課)

TEL 083-922-0383

FAX 083-922-5768

Email ykyoikuk@ruby.ocn.ne.jp